

医中誌

NEWS

No.7

FEBRUARY, 2012 第7号

CONTENTS

ご挨拶	P. 1
医中誌Web (Ver.5) の リリースについて	P. 2
医学中央雑誌の デジタル・アーカイブ公開	P. 8
『医学中央雑誌』のデジタル・アーカイブ化..... に寄せて (鈴木晃仁)	P. 9
追悼・篠原恒樹先生	P. 10
Information	P. 12

ご挨拶

NPO 医学中央雑誌刊行会
理事長 脊山洋右



1903年(明治36年)3月25日に創刊された「医学中央雑誌」は今年で109年目を迎えました。第1巻の収載誌数は64タイトル、文献数は1,886件でしたが、現在は2,944タイトル、年間追加文献数は約35万件に達しています。2000年からサービスを開始した医中誌Webでは、1983年から蓄積された約780万件の文献情報をインターネット上で提供しております。

「医学中央雑誌」は国内で発表された医学に関連する文献を網羅的に収載し、書誌情報とともに400字前後でまとめられた要旨も掲載しております。この医中誌Webというデータベースは国内で行われた研究を日本語で検索できるようにしたものでありますが、日本語に限らず外国語で書かれた文献も収集の対象になります。

近年は学会の講演要旨も英語で書かれることが多くなりましたが、この内容を日本語と同じように自由自在に理解できる学会員は必ずしも多くないのが現実であります。そして、論文の著者にとっては発表した新しい知見をできるだけ広く認知してもらうことが本望であることは言うまでもありません。そこでこの要望に応えるべく、学会誌によっては欧文誌の英語論文の抄録を和訳し、和文誌にて提供するなどの対応を行っています。

一方、文献検索を行う者にとっても、英語の文献を日本語で検索できれば大切な情報を見逃すことを防ぐことができます。医中誌Webはこの著者と文献検索者の間を日本語の世界で結びつけることによって貴重な研究の支援に努めております。

2006年から開始した外部のフルテキスト(電子ジャーナル)へのリンクも現在では全体の約2割に付加されており、PubMedとの相互リンクによる検索の利便性の向上とも相まって日本における医学研究を把握する上で欠かせないツールとなってまいりました。

また、2011年には医中誌Web(Ver.5)へのバージョンアップを行い、検索画面の改善による使い勝手の向上とともに、あいまい検索や関連語の推薦など視野の広い検索も可能になって、アクセス数も増加に向かっております。

今後も著者および利用者の立場に立った改善を続けてまいりますので、ご教示いただきたくお願い申し上げます。

医中誌Web (Ver.5) のリリースについて

はじめに

2011年、5年ぶりとなる医中誌Webの大きなバージョンアップを行い、医中誌Web (Ver.5) をリリースしました。Ver.5のリリースは段階的に行われ、2011年4月に第一段階、12月に第二段階、そして本年の第三段階をもって完了となります。

今回のバージョンアップの一番の目的は「ユーザビリティの向上」、即ち、より使い易くしかも的確な検索が行えるユーザーインターフェースの実現でした。そのため、画面遷移や画面デザイン的大幅な変更や、入力補完など検索をサポートする機能の補強を行いました。

その他、個人個人が画面デザイン・検索機能のカスタマイズやメールアラートの設定を行える「My医中誌」、機関ごとの設定機能の強化、参考文献情報の提供、外部サービスとのよりフレキシブルかつ緻密な連携が可能となるAPI実装など、盛り沢山のリリースとなりました。ここでは既にリリースされた内容を中心に、Ver.4との違いを織り交ぜながら紹介します。

ユーザビリティの向上を目指して

ユーザーの皆様のご意見・アクセスログの分析などから明らかとなった問題点の改善を中心に、「誰でも直観的に使える」という一般的な使い易さとともに、「日本の医学文献を探す検索エンジン」としての使い易さの実現をも目標におき、以下の改訂を行いました。

「より直観的に使えるユーザーインターフェース」を目指して

・ログイン時の画面遷移をシンプルに

Ver.4では、実際の検索画面に行きつくまでに2~3画面を経由しなければならなかったのを改め、IP認証であれば1クリックで検索画面が表示されるようにしました。

・モードを1つに統合

「BASIC MODE」と「ADVANCED MODE」の

位置付けが不明確でユーザーが迷う最大のポイントでもあったため、Ver.5では2つのモードを統合しました。統合するにあたっては、2つのモードの良い点を受け継ぐよう工夫しました。

・検索対象を全年度に

Ver.4では検索対象となるデータ年の初期設定が5年で、変更するには「検索対象年の変更」ページに移動する必要がありました。この遷移が分かり難いため、結果として多くのユーザーが6年以上前の情報を意図せず取りこぼしていた可能性があります。Ver.5では、検索対象を常に1983年以降の全データとし、必要に応じ雑誌の発行年で絞り込む流れに改めました。



図1 検索画面

・検索語入力ボックスの位置

検索語入力ボックスは、PubMedやGoogleなど多くの検索エンジンの標準的なスタイルに倣い、画面上部に配置しました(図1-A)。

・絞り込み条件の設定を分かり易く

ヒット件数が多過ぎるときに的確に件数を絞り込むには、論文種類・チェックタグ・副標目などの絞り込み項目を利用して頂きたいところです。しかし、Ver.4のログよりログイン中に一度以上絞り込み検索が実行される割合は、全体で13%、法人のAdvanced Mode利用者でも19%

に過ぎないことが分かりました。また、検索フィールドを指定するのは場合により有効な検索方法なのですが、ログからはこれもほとんど行われていないことが分かりました。そこで「よく利用される絞り込み条件は最初から初期画面に表示しておく」(図1-**B**)、「Ver.4ではプルダウンメニューでの選択のみだった検索フィールドの指定方法を、一部ラジオボタンでの指定とし、より目立たせる」(図1-**C**)、としました。

・詳細な情報の表示方法を分かり易く

同じくVer.4のログの分析から、詳細情報を見る際に「詳細表示」アイコンをクリックするより、文献番号のリンクをクリックし、1件のみの詳細を見る方が圧倒的に多いことが分かりました。タイトル表示画面と、1件のみの詳細画面を何度も行き来する煩雑な操作が頻繁に行われていたこととなります。そこでVer.5ではタイトル表示画面に「抄録を見る」というリンクを置き、画面を切り替えなくても抄録を読めるようにする(図1-**D**)とともに、詳細表示への切り替えを含む「表示内容の変更」を、これもより標準的なプルダウンでの操作に変更しました(図1-**E**)。更に、後述する「My医中誌」で設定すれば、デフォルトの表示形式を詳細表示とすることもできるようになります。

・検索結果からの再検索

検索結果の、著者名、収載誌名、キーワードがそれぞれリンクとなりました。クリックすると、それぞれの著者名・収載誌名・キーワードでの検索が行われます(図1-**F**)。

・印刷などの出力を分かり易く

Ver.4では、印刷やダウンロードなどの出力を行う際、それぞれ別ウィンドウが開く画面遷移でしたが、Ver.5ではよりシンプルに検索画面がブラックアウトし、ポップアップが表示される方式としました(図2)。



図2 印刷ポップアップ画面

「医学分野の検索エンジンとしての使い易さ」を目指して

・医学文献の検索においてよく行われる検索

医学文献の検索においては「疾患の診断・治療」および「医薬品の副作用」に関する文献を探す場面は非常に多いと考えられます。そこで、これらの検索を簡単かつ的確に行えるよう、初期画面に表示されている絞り込み条件として「治療に関する文献」「診断に関する文献」「副作用に関する文献」を新たに設けました(図3-**A**)。チェックされた場合それぞれ下記の検索が自動的に行われます。



図3 よく行われる検索

・「治療に関する文献」

○○○ AND ((SH=治療の利用, 治療, 薬物療法, 外科的療法, 移植, 食事療法, 精神療法, 放射線療法) OR (治療/TI or 手術/TI))

・「診断に関する文献」

○○○ AND ((SH=診断的利用, 診断, 画像診断, X線診断, 放射性核種診断, 超音波診断) OR (診断/TI))

・「副作用に関する文献」

○○○ AND ((SH=毒性・副作用, 化学的誘発, 有害作用) OR (副作用/TI))

・解説的記事の検索

医師を対象としたヒアリングなどのリサーチの結果、医中誌 Web の検索においては解説的な文献に対するニーズが高いことが明らかとなりました。そこで、同じく初期画面に表示されている絞り込み条件として「解説・総説」を新たに設けました(図3-**B**)。これがチェックされた場合は、下記の検索が自動的に行われます。

○○○ AND (PT=解説, 総説, 図説, Q & A, 講義)

・入力補完

検索語入力時に適切な候補語を表示する、入力補完機能を設けました。対象となる検索フィールドは、「すべて(フィールド指定なし)」「著者名」「収載誌名」です。「すべて(フィールド指定なし)」の場合は、過去3年分

の検索ログから実際に検索が実行されたキーワードを集計し頻度順に表示します(図4-1)。「著者名(図4-2)」「収載誌名」フィールドでは、医中誌内の辞書データから生成したリストが文字順に表示されます。

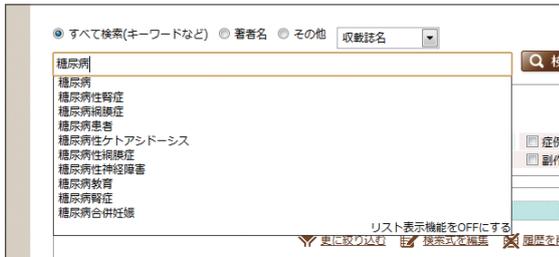


図4-1 「すべて(フィールド指定なし)」の入力補完



図4-2 「著者名」フィールドの入力補完

・あいまい検索

日本語の検索においては、同じ言葉が複数の異なる表記を持ついわゆる「表記の揺れ」への対応が重要です。Ver.5ではこの表記の揺れを吸収する「あいまい検索」を行っています。あいまい検索とは、例えば「蛋白質」と入力したら「たんぱく質」「タンパク質」もヒットする検索です。原則として、文字単位ではなく、医学用語を中心とした約23,000語のリストについて同一視を行います。一部の異体字・機種依存文字等については文字単位での同一視を行っています(「頸」と「頸」、「靱」と「靱」、あるいは「①」と「(1)」など)。

1行表示		
#1	(肺腫瘍/TH or 肺癌/AL)	140,872
#2	(肺腫瘍/TH or 肺がん/AL)	140,872
#3	(肺腫瘍/TH or 肺ガン/AL)	140,872

Ver.5

検索履歴		
< 1983 - 2012 >		
No.	検索式	件数
#1	(肺腫瘍/TH or 肺癌/AL)	140,477
#2	(肺腫瘍/TH or 肺がん/AL)	128,531
#3	(肺腫瘍/TH or 肺ガン/AL)	128,151

Ver.4

図5 あいまい検索の有無によるヒット件数の差

図5は、Ver.4とVer.5の検索結果です。Ver.5では、「肺癌」「肺がん」「肺ガン」のどれで検索しても同じヒット件数となっています。

その他の改訂

参考文献情報の提供

一部の文献について参考文献情報を閲覧できるようになりました。「参考文献を見る」というリンクをクリックすると、その論文の参考文献情報が表示されます(図6)。更にそれぞれの参考文献から、電子ジャーナルやデータベース(海外誌の場合はPubMed、国内誌の場合は医中誌Web)にリンクが張られています。参考文献を閲覧できるのは2011年2月現在約5万件ですが、今後対象誌を増やしていく方向で検討しています。

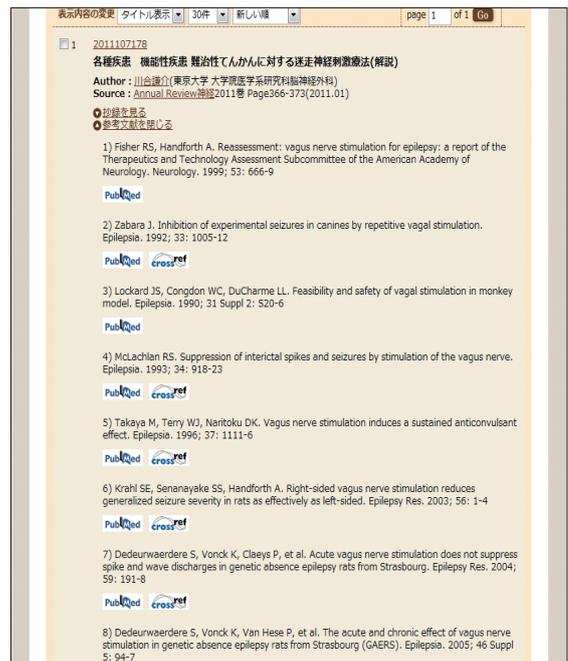


図6 参考文献情報

シソーラス参照画面の改善

Ver.5では、分かり易い検索を目指すと同時に、人手による索引に裏付けられた適合性が高い検索をより多くのユーザーに行って頂くことも目標としています。その1つがシソーラス参照画面の改善です。

・リスト表示の画面の改善

Ver.4では同じシソーラス語が複数にわたり表示されていました。Ver.5ではこれを改善し、1つにまとめた表示と

APIの提供

医中誌 Webの Ver.5リリースを機に、外部検索サービスから医中誌の情報を呼び出すためのWebAPIを用意しました。医中誌の情報の一層の有効活用のためには、医中誌 Webというユーザーインターフェースに磨きをかけることとともに、利用者の情報環境へのフレキシブルな対応、即ち外部サービスとのシステム連携への積極的な対応が必要と考えたためです。まずは「医中誌 Web 契約機関が、医中誌 Web 以外のサービス（マルチ検索エンジンなど）から医中誌の情報を検索する」ことを可能とするため、医中誌 Webの認証システムとの連携も実装しました。同時に、医中誌 Webの契約機関による利用に限定せず広く利用して頂くことも期待しています。

APIはOpenURL、OpenSearch、SRU/SRWの3つのプロトコルに対応しています。

OpenURL

医中誌 Webの検索結果をリンクリゾルバ等にOpenURLで送信する機能は従来から実装していますが、今回、外部からのOpenURLデータの受け付けに対応しました。外部からOpenURLで直接医中誌 Webにアクセスすることができますので、例えば、リンクリゾルバからのリンク先のターゲットとして医中誌 Webを指定することが可能になります。

URLは、[http://search.jamas.or.jp/api/openurl?\[パラメータ\]](http://search.jamas.or.jp/api/openurl?[パラメータ])です。[パラメータ]の箇所にOpenURLで文献の書誌情報を指定してアクセスすると、該当の文献が表示されます。

OpenSearch

OpenSearchはWebを検索するための標準プロトコルで、ブラウザ内の検索ボックスなどで使用されています。

医中誌 Webのトップページにアクセスしてブラウザの検索ボックスのメニューを開くと、Internet Explorerでは“追加”または“検索プロバイダーを追加”、Firefox 9.0では“医中誌 Webを追加”と表示されますので、これをクリックするとブラウザに医中誌 Webが登録されます。（図11はInternet Explorer 8での登録例です。ブラウザやバージョンによって登録方法が異なる場合があります。）

登録するとブラウザの検索ボックスなどから、直接医

中誌 Webの検索を行えるようになります。

URLは、[http://search.jamas.or.jp/api/opensearch?q=\[キーワード\]](http://search.jamas.or.jp/api/opensearch?q=[キーワード])です。[キーワード]の箇所に検索キーワードを指定してアクセスすると該当の検索結果が表示されます。



図11 Internet Explorer 8でのOpenSearch登録例

SRU/SRW

SRU/SRWも検索の標準プロトコルの1つです。OpenSearchと同様に、検索キーワードを指定してアクセスすると該当の検索結果が得られます。更にSRU/SRWでは、医中誌 Webの検索フィールドをすべて指定することが可能です。例えば、シソーラス用語、抄録、著者名など特定のフィールドに限定して検索することができます。また、検索結果はHTMLではなくXML形式（PRISM2.1対応）で取得できますので、例えば、統合検索システムなど、特定のシステムから直接検索を行い、検索結果は独自のインターフェース上で表示するといった利用に適しています。

SRUのURLは、[http://search.jamas.or.jp/api/sru?\[パラメータ\]](http://search.jamas.or.jp/api/sru?[パラメータ])です。[パラメータ]の箇所で検索キーワードや取得する検索結果の件数などを指定してアクセスします。

SRWのURLは、<http://search.jamas.or.jp/api/srw>です。指定するパラメータの内容はSRUと同じですが、URLのパラメータとしてでなく、SOAP通信でパラメータを送信します。

ご利用を希望される場合は、医学中央雑誌刊行会までお問い合わせください。また、医中誌ホームページ上でより詳細な情報を提供してまいります。

おわりに～今後の改訂について

引き続き予定されている主なバージョンアップ内容は下記の通りです。

検索結果の出し分け機能（フィルターの設定）

検索条件を組み合わせた「フィルター」を設定し、検索結果を出し分ける機能です（図12）。機関単位およびMy医中誌機能による個人単位での設定が行えます。



図12-1 フィルターによる検索結果の「出し分け」



図12-2 フィルター設定画面(My医中誌)

My医中誌

エンドユーザー一人一人が好みの設定を行える「My医中誌」を設けます（図13）。検索画面のデザインや機能などの環境設定のほか、「フィルター」設定による検索結果の出し分け、検索式の保存とメールアラートの設定が行えます。設定内容をいくつかご紹介します。

- ・検索画面の色調：「茶（デフォルト）」「青」「緑」「ピンク」のいずれかに設定できます。
- ・検索語入力欄の大きさ：「1行」または「複数行」に
- ・入力したキーワードを検索実行後クリアするかしないか
- ・入力補完リストの表示を行うか行わないか
- ・検索結果の表示や印刷・ダウンロードの際のデフォルト指定（タイトル表示、詳細表示など）
- ・「会議録除く」をデフォルトでチェックするかしないか
- ・表示する履歴の数：1行かすべてか



図13 My医中誌のメニュー画面

- ・ダイレクトエクスポートアイコンの表示
- ・ヒット文字列のハイライトをするかしないか

その他の新しいユーザー管理者設定

その他の新しいユーザー管理者設定として、下記が可能となります。

- ・絞り込み条件やフィルター設定条件として「フルテキストリンクあり」「無料のフルテキストリンクあり」「雑誌の所蔵あり」など、原本入手に関連する内容を設定できるようになります。
- ・ダイレクトエクスポートの設定（既にリリース済み）：ダイレクトエクスポート先のサービス（EndNoteやRefWorksなど）のアイコンを検索画面に直接表示できます。
- ・トップページに独自の情報を表示：トップページの「Information」欄に、医中誌からの案内とともに、契約機関ごとの情報を表示できるようになります。
- ・所蔵リストの登録の際、ISSNに加えE-ISSN、ISBN、医中誌収録誌コードによる登録も可能になります。これにより、ISSNを持たない所蔵雑誌の登録が行えるようになります。

2011年のバージョンアップに際しては、リリース日程の変更、ならびにバージョンアップ時に不具合が生じご迷惑をお掛けしたことを改めてお詫び致します。今後は、遅滞や不具合の発生がないよう万全の体制で進めてまいります。どうぞご期待ください。

医学中央雑誌の デジタル・アーカイブ公開

2011年10月18日、国立国会図書館（以下「NDL」）のデジタル化資料の一コンテンツとして、1903年発行の創刊号から1983年3月発行分までの医学中央雑誌バックナンバー全ページの画像ファイルが公開されました（以下「医中誌アーカイブ」）。このアーカイブの公開は、特に医学史を中心とする歴史・社会学の研究者から切望されていたものですが、刊行会独力での実現は負荷やサービスの採算性から困難でした。そこでNDLに協力の要請を行った2009年、幸運にも平成21年度補正予算において「知的創造立国を推進するための国民の知識・文化財産としてのNDL所蔵資料のデジタルアーカイブ」のための経費約127億円が計上され、その枠組みの中で実現に至ったものです。

「国立国会図書館のデジタル化資料」トップページ (<http://www.dl.ndl.go.jp/>) からアクセスするときは、検索窓に「医学中央雑誌」と入力し検索するとリストのトップに表示されます。医中誌 Web トップページの「Information」からもリンクされています。

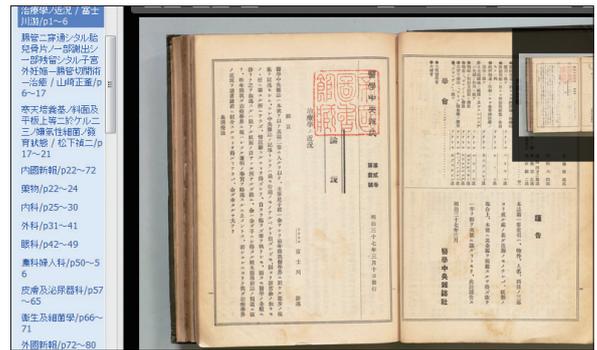


このページが表示されたら、「目次」の階層構造を辿っていきます。最初は大きく3つに区分された西暦の範囲が表示されています。そこから右向きの矢印をクリックし、「各範囲に含まれる西暦のリスト」⇒「各西暦に含まれる号のリスト」⇒「各号の目次」と進みます。

なお、医中誌アーカイブは基本的に「号」単位で配列されています。医中誌のバックナンバーは図書館では通常巻ごとに合本され、巻頭に目次・索引が綴じられています。このアーカイブにおいては索引号も通常

号と同列に扱われている点に注意が必要です。

戦前の医中誌は通読を前提とした読み物という性格が強く、日本の論文情報だけではなく、単行本、洋雑誌の論文情報、学位論文、官報、学会情報など多彩でした。また、初期の医中誌には論文そのものが収録されていました。下記は1904年発行の13号に掲載されたレビュー「治療学ノ近況 / 富士川游」です。



医中誌アーカイブは、上述のように目次の階層を辿る見方、索引号に掲載されている「件名（キーワード索引）」または「著者名索引」から探す見方のほか、「国立国会図書館サーチ (<http://iss.ndl.go.jp/>)」からの検索も行えます。各号の目次を含む書誌情報が検索対象となります。トップページの検索窓に、例えば「医学中央雑誌 コレラ」のようにキーワードや著者名と組み合わせることで検索します。

これらの医中誌アーカイブの見方・使い方につきましては、医中誌ホームページ掲載の解説をご参照ください。また、同じくホームページに、全号の構成を巻の概念を導入して分かり易く提示する案内も掲載する予定です。

さて一方、刊行会では現在、1982年から過去に遡及し書誌情報のデータ化の作業を進めており、2011年12月現在、1977年分までのデータ化が完了しています。これらのデータは医中誌 Web に順次追加し、検索が行えるようになります。しかし、抄録はデータ化の対象となっていないため、医中誌 Web の検索結果から医中誌アーカイブの該当ページへのリンクを張る予定です。

最後に、医中誌アーカイブの実現にご尽力頂きました国立国会図書館、ならびに、書誌の遡及入力作業にあたり医学中央雑誌全巻を当会に移管して下さった東京女子医科大学の関係者の皆様にこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

『医学中央雑誌』のデジタル・アーカイブ化に寄せて

鈴木晃仁

慶應義塾大学経済学部教授
専攻は医学史。著作は、「Madness at home」(2006)など

2011年10月18日に、『医学中央雑誌』の1903年の創刊号から1983年3月までの全画面デジタル・アーカイブが国会図書館のサイトで公開された。80年間の刊行物の全誌面のページを見開きで撮影し、巻・号ごとにまとめたものである。1983年4月以降の『医学中央雑誌』の内容は、ウェブ上のデータベース「医中誌Web」に連結するので、両者をあわせると、日本の医学についての網羅的な文献情報を、1903年から現在まで連続してウェブ上で調べられることになった。現在では1983年3月を境にデジタル・アーカイブとウェブ上のデータベースが分かれているが、数年後には、「医中誌Web」からデジタル・アーカイブへのリンクも張られる予定であると聞いている。この大事業をなした『医学中央雑誌』および関係された皆さまに、心からの感謝をささげたい。

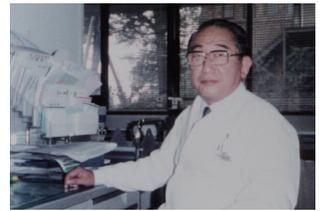
『医学中央雑誌』のデジタル・アーカイブ化とその公開は、非常に大きな意味をいくつか持っている。私にとってもっとも身近な関心で言えば、このアーカイブは、医学史、医学社会学、医療人類学、医療倫理、科学技術社会論(STS)の研究者の多くが待望していたものである。このような領域の研究者にとって、創刊号から現在までの『医学中央雑誌』は常に参照したい参考文献であるが、古い『医学中央雑誌』をそろえている図書館が身近にあるわけでは必ずしもないし、古くからある大学の医学図書館でさえ、『医学中央雑誌』を創刊号から一号も欠かさず持っているのはむしろ例外的であろう。今回のアーカイブ化と公開により、20世紀の日本の医学の活動をもっとも網羅的に集めた文献情報・抄録誌が、国会図書館を通じて自分のPCの画面に現れるという、もっともアクセスしやすい形で利用できるようになった。これは日本の医療人文学・医療社会科学の研究者にとって、研究の基本的な部分における作業の効率性を劇的に向上させる、ひとつの「情報革命」が起きたといっても過言ではない。遠からぬ将来に、日本における医療人文学・医療社会科学の研究は、

飛躍的な拡大と充実の時期を迎えるだろう。

しかし『医学中央雑誌』のデジタル・アーカイブ化は、医学史や医療社会学者の研究の研究を効率的にしたことよりもずっと重要な意味を持っている。それは、医学の過去と現在と未来が連続していることをくっきりと示すひとつのコーパスをネット上に立ち上げたことである。かつての情報提供のフォーマットにおいては、「医中誌Web」における収録がはじまる1983年を境にして、情報の断絶が作られていた。『医学中央雑誌』自体は1903年から発刊されていたにもかかわらず、「医中誌Web」は、あたかも、日本の医学研究が1983年から始まるかのような錯覚に近いものを作り出していた。現在の医学が、よりよい未来の医学を志向する中で忘れがちなことは、過去の医学も、現在の医学と同じように、よりよい医学を志向し、最新の情報を求め続けてきたということである。その事実を、100年以上の蓄積をもって示してくれるのが『医学中央雑誌』であり、今回のデジタル・アーカイブ化は、その蓄積を、もっともアクセスしやすい形式で示すことになった。現在の医療は一世紀にわたる文化遺産との連続の中で営まれているという単純な事実を、現在の医療者が知ることができるようにしたのである。特に、「医中誌Web」からのリンクが張られたあかつきには、現代の最先端の場の医療者が、日本の医学の文化遺産に接しながら未来を志向するという状況が作られることになる。

今回のデジタル・アーカイブ化は、『医学中央雑誌』の皆さまにとって、いろいろなお苦勞があったことと想像している。100年以上の歴史をもったひとつの文化遺産を、デジタル化とデータベース化によって現代医学の世界に立ち上げたという、過去と現在と未来が交錯する皆さまの仕事が、これからどのように医療人文学者・医療社会学者に活用されていくのか、そして現代医学の研究者に長く深い影響を与えるのか、責任感と期待感がまじったような心持ちになってくる。

追悼 篠原恒樹先生



浴風会病院にて

2010年6月、医学中央雑誌刊行会第4代理事長 篠原恒樹先生が逝去されました。

篠原先生は、日本における老年医学の始祖であり、

医学中央雑誌刊行会代表でもあった尼子富士郎先生に師事、

老年医学の研究・臨床に生涯携わるとともに、

長らく医学中央雑誌の抄録作成・校閲作業に従事された後、理事長に就任されました。

理事長就任後も引き続き校閲などの編集作業を行いつつ、

組織のNPO法人化、社内システムのOA化、冊子体からCD-ROM、

そしてWebへのサービスの電子化という大きな変革を成し遂げました。

時代の要請によるものとは言え、医中誌にとっては存亡をかけた改革でした。

困難を乗り越えスムーズな転換がはかられたのもすべて先生の

強い意志と尽力の結果であったと言うほかありません。

ここに、生前親交の深かった理事、また長年にわたり仕事を共にした職員による追悼文を掲載致します。

医学中央雑誌刊行会役員ならびに職員一同、篠原先生のご冥福を心よりお祈り致します。

■ 篠原先生の思い出

早川 道夫

(医学中央雑誌刊行会 理事)

今は亡き篠原先生は、医学部の卒業年次としては、私の2年先輩ですが、生まれは1929年(昭和4年)で同じ、しかも私の方が41日早く生まれています。卒業後の経歴も全く違う私に、先生との接点が出来たのは、1957年に大学院入学時、老人病の研究を命じられて浴風会病院にお邪魔して以来です。

この時の仕事に始まって、更に、老人病特に病理学的所見と臨床との勉強を深めたいと1976年、浴風会病院病理に入職し、以後、検査課の担当となり、1983年からはご一緒に浴風会病院の副院長を務めさせて頂きました。先生が故村上先生から医学中央雑誌刊行会の理事長を引き継がれ、1992年に先生からの勧誘を受けて、医中誌の理事をお引き受けしたことで更に関係が深まったようです。1995年、私が横須賀の方に老人保健施設を作るために赴任することになったので浴風会病院を退職、一時期、医中誌の仕事は途切れがちになりましたが、3年後東京に戻ってからは、医中誌のOA化や、2002年、医中誌の「特定非営利活動法人」化のお手伝いをして副理事長に推され、医中誌の運営にも直接関わるようになったと記憶しています。先生は温厚な方で私のようなものの意見もよく聞いて下さり、必要な時の決断も的確で、率先して行動され、職員からの信頼も厚く、困難な

時期もありましたが、医中誌全体の団結の要として、今の安定した状態を築き上げて下さいました。特にOA化の時は、先生の決断と御協力がなければ成功は覚束なかったと思います。

先生と私は同年齢ですので、雑談の中で、八十歳までは医中誌の仕事をやリ、一応の目鼻をつけて次の世代に渡そうと話し合っていました。2009年に心筋梗塞を発症されましたが、幸いにはほぼ順調に回復されて勤務が可能になっていたところ、2010年、突然、先生が天に召されましたのは、驚きとともに残された私には一寸ショックでしたが、考えてみれば、医中誌も種々問題がありましたが、ほぼ安定した軌道に乗せたといつてよい状態になりましたし、創刊以来の「医学中央雑誌」のデジタル利用の目途もついていましたし、「一応の目鼻はついた」といってよい時期だったと思います。或る意味では、この時期にさっとこの世から手を引かれたとは、「流石」と言えるかもしれません。残った私は、先生亡きあと、うろろうと馬齢を重ねて、余りお役にも立てないでいる中、もう82歳を超えてしまいました。そろそろ先生と次の世で語り合う日の準備をする必要がありそうです。

色々な想いはありますが、先生の残された業績を、更に発展させるのは残った職員の責務でもありましよう。今は天にあって今までのように暖かく見守っていて下さると確信しています。近い将来、彼の地で談笑することのできる楽しみを胸に、与えられた余生を、職員の方々と一緒に頑張りたいと思います。

■ 篠原先生との思い出

元永 隆次

(医学中央雑誌刊行会 専門役)

昭和40年中頃、刊行会の編集部校正課で新人の私は、
標題と抄録の校正をしていました。原稿の校正が終了すると、
当時の理事長であった尼子先生の自宅(医学中央雑誌刊行
会の隣)で尼子先生から校正の点検と指示を受けていました。
その後、浴風会病院勤務の篠原先生、大友先生など数人
の方が私の校正の点検・指示を受け継がれ、浴風会病院ま
で毎日、原稿を持って自転車で通いました。当時、篠原先
生は、患者の診療など臨床部門を受け持つだけでなく、献
体の剖検や、恩師：尼子先生の老人医学研究のため関連
文献を収集されたり、ソ連(現ロシア)へ視察に行かれるなど
医学研究部門でも活躍なさっておられました。ロシア視察の
折、医学生でもない先生に冗談のつもりで「ロシアに留学さ
れたのですか」と問いかけると黙っておられました。また、校
正点検の際、テレビのお笑い番組などが好きな私はジョーク
を交えて話しかけてみたのですが、同じく黙っておられたので、
あきらめた私はその後はただ大人しく点検を受けていました。

1989年(平成元年)、先生が理事長に就任されて(村上
元孝先生の後任)、会社の行事(忘年会など)開会のご挨拶
で、中華料理の時は中国語で、イタリア料理の時はイタリ

ア語で、フランス料理
の時はフランス語でた
どたどしく、しかし大層
楽しそうにお話しされ、
実はジョークもお好き
なお方であり、当時は唐
突な私の一言に反応



ご家族とのスナック

しかねたのだなと思ひ至りました……。

私は後に索引を担当するようになり、医学用語で分からな
い用語について質問するため、理事長室を訪れるようになりま
した。先生の業務の妨げになったかもしれませんが、ずうずう
しく頻繁に訪れ、先生の丁寧な解説は大変参考になりました。
(その際にジョークを交えたかどうかは、ご想像にお任せしま
す。)

篠原先生、永年にわたり、大変お世話になりました。

篠原先生略歴

昭和 4年(1929年)12月19日 門司市(現在の北九州市)
に生まれる

昭和24年(1949年)東京大学 医学部入学

昭和27年(1952年)尼子富士郎の老年学の講義を聴く。

これが後に尼子富士郎に師事し、更に医学中央雑誌刊行
会の事業を継承するきっかけとなった

昭和28年(1953年)東京大学医学部医学科卒業

昭和29年(1954年)~31年(1956年)同大生化学教室在室

昭和31年(1956年)~33年(1958年)同大第三内科在籍。

この頃より医学中央雑誌の編集作業に従事

昭和33年(1958年)社会福祉法人 浴風会病院に入職、尼
子富士郎(当時、浴風会病院院長)のもとで老年医学の研究、
臨床に従事

昭和47年(1972年)浴風会病院副院長に就任

平成元年(1989年)医学中央雑誌理事長に就任

平成22年(2010年)死去(享年80歳)

著作

『神経と精神の老化』(共著) 医学書院、1976年

『新病態栄養学双書 9 老年者』(編著) 第一出版、1981年

『老化と栄養』(編著) 第一出版、1982年

『じょうずに健康に老いる法』(共著) 主婦の友社、1982年



お知らせ

医中誌 Web 2012年料金

医中誌 Web 2012年料金は全て据え置きと決定しました。詳細は医中誌ホームページ <<http://www.jamas.or.jp/service/ichu/fee.html>> をご覧ください。

東日本大震災関連文献情報のご提供

医中誌ホームページにて、医中誌 Web から抽出した、災害医療・放射線医学に関連する医学文献情報をご提供しております。「放射能ハザード」「環境・食品と放射能」「災害医療」の3つのカテゴリーを更にテーマごとに分類したリストから各文献情報をご覧ください。どなたでもフリーで閲覧可能です。

http://www.jamas.or.jp/news/news_earthquake.html

2011年11月16日更新

●関連文献情報のご提供

医中誌Webから抽出した、災害医療・放射線医学に関連する医学文献情報をご提供します。このリストは「放射能ハザード」「環境・食品と放射能」「災害医療」の3つのカテゴリーを更にテーマごとに細分類したものです。各分類のリンクをクリックすると、文献情報(文献タイトルや著者などの基本的な書誌情報と抄録)を閲覧できます。一部の文献は、電子ジャーナル(フルテキスト)にリンクされています。

<1. 放射能ハザード>

- 1-1 被ばく医療全般・急性障害
- 1-2 被ばく線量の評価
- 1-3 人的影響・発がん
- 1-4 安定ヨウ素剤
- 1-5 被ばくと幹細胞移植
- 1-6 精神・心理影響、住民対応
- 1-7 情報システム
- 2 放射線防護、原子力防災
- 3 NBCテロ
- 4 チェルノブイリ・核実験被爆、国際支援
- 5 放射線診療とリスクマネジメント

<2. 環境・食品と放射能>

- 1 環境と放射能、移行・評価モデル
- 2 食品と放射能、移行・評価モデル
- 3 海洋・海産物と放射能、移行・評価モデル
- 4 チェルノブイリほか海外測定事例

収録件数とデータ更新について

2011年の医中誌 Web・医中誌パーソナルWebのデータ収録総数は、355,435件でした。現在の収録総数は、約780万件となっています(1月27日現在、Pre医中誌含む)。また、医中誌 Web・医中誌パーソナルWebのデータ更新は、原則として毎月1日と16日に行われます。収録件数やデータ更新に関する最新情報につきましては、下記のページでご案内しております。

<http://www.jamas.or.jp/user/database/data.html>

リンク件数

医中誌 Web からフルテキストへのリンク件数は、約150万件となりました。サービスごとの内訳は下表の通りです。

サービス名	リンク件数 (フルテキスト有)
CrossRef	129,740
CiNii	642,855
Medical Online	624,603
Pier Online	29,212
MedicalFinder	57,602
J-STAGE	102,174
Journal@rchive	156,147
Medical e-hon	53,528
Annual Review Online	819
関東連合産科婦人科学会誌	3,968
合計(重複除く)	1,536,056

(1月27日現在)

サービスのご案内

【医中誌Web】

大学・病院・企業等法人ユーザー向けのサービスです。ご利用料金は年間固定料金で「同時アクセス数」により異なります(同時アクセス2で年間262,500円)。

【医中誌パーソナルWeb】

個人ユーザー向けのサービスで、So-netおよびMedical e-honにてご提供しております。ご利用料金は、月額2,100円(月8時間まで利用可能)です。サービスの詳細については医中誌ホームページをご覧ください。

編集後記

3年ぶりの医中誌 Newsのお届けとなりました。次号は、本号に引き続き、医中誌 Web(Ver.5)のバージョンアップ内容をご紹介するほか、バージョンアップ前後のアクセス状況のレポートもお届けする予定です。どうぞご期待ください。(M.M.)

医中誌NEWS 第7号 FEBRUARY, 2012

発行人：特定非営利活動法人 医学中央雑誌刊行会
 理事長 脊山洋右
 〒168-0072 東京都杉並区高井戸東2-5-18
 Tel: 03-3334-7575 Fax: 03-3334-0497
 E-mail: info@jamas.or.jp